

平成30年度 第3回岡谷市行政改革審議会 会議録

以下のとおり、会議の内容について報告いたします。

- 会議名 平成30年度第3回岡谷市行政改革審議会
- 日 時 平成30年12月27日（木） 14:00～17:00
- 場 所 理事者控室
- 配布資料
 - ・資料① シルキーバス運行経費について
 - ・資料② 庁内広報 ～平成29年度職員提案、改善改革運動の審査結果をお知らせします～
 - ・資料③ 岡谷市特定事業主行動計画Ⅲの実施状況（平成29年度）
 - ・資料④ （2）将来展望人口（岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン）
 - ・追加資料 第5次岡谷市総合計画（基本構想、序論、前期基本計画）

1 開会・岡谷市民憲章 唱和

会 長 定刻になりましたのでこれより、平成30年度 第3回岡谷市行政改革審議会を始めます。

（市民憲章唱和）

2 会長あいさつ

会 長 年末の大変お忙しい中、都合をつけていただき、ご参加いただきありがとうございます。

本日は都合により、3名の委員が欠席となっていますので報告いたします。

3 会議事項

会 長 それでは、さっそく議事に入りたいと思います。

本日の議題は、（1）プログラム（案）の審議になります。

前回の審議会において「プログラム全体の（案）」につきましては、事務局より一定の内容説明がありましたので、本日は具体的な審議を行っていききたいと思います。

審議の進め方についてお諮りいたします。

はじめに、プログラム（案）1ページの「1 これまでの行財政改革の取組」から13ページの「4 行財政改革の必要性」までにつきまして、今までの経過を踏まえ、取組状況と成果、課題などについて、事務局でまとめていただいておりますので、一括して審議をいたしたいと思います。続きまして、14ページの「5 岡谷市行財政改革プログラムの基本的な考え方」について審議をしたいと思います。

次に、数値目標は跳ばしまして、先に、15ページからの「7 改革へ取組

むための重点改革項目と推進項目」について、それぞれの項目ごと実施計画も含めて審議をいたします。順次、審議が終了しましたら、１５ページの「６ 岡谷市行財政改革プログラムの数値目標」を審議しまして、最後に１９ページからの「８ 改革の推進と進行管理」について、審議をしまいたいと思いますが、各委員の皆さまはよろしいでしょうか。

委 員 異議なし

会 長 それでは、このように進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、プログラム(案)１ページの「１ 行財政改革の取組」から１３ページの「４ 行財政改革の必要性」までにつきまして、一括して審議をいたしたいと思います。

事務局から何かありますか。

秋山主幹 はい。補足説明などはありません。よろしくお願いいたします。

会 長 それでは、委員の皆さんから何かありましたら、ご発言いただきたく思います。

委員 N 一般財源の部分で、プログラム案では平成２９年度の１３７億円の財源が、広報おかや２０１８年１１月号では１９８億となっている。この数字は市民からすると、本来は１９８億円ほどと見えるはずであり、広報においても歳入が市税、地方交付税、国庫支出金、諸収入、市債などの項目で、歳出は民生費、公債費、商工費、総務費、土木費といった、市の一連の発表はこのようなかたちでなされている。いろいろな切り口があると思うが、プログラム案ではなぜここではこのようなかたちを使うのか教えていただきたい。

また歳入と歳出と比べた場合、約２００億円の予算と考えていると思うが片方が１３７億円となるとなぜかということになる。比較をするのであれば、入払について同じレベルで載せるべきではないか。一般的に発表されているものと同じものを使った方がよいと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

秋山主幹 はい。そのような切り口で見るという考え方もありますが、行財政改革につきましては、今までの流れもあります。市の会計の収入については、国庫補助金や建設事業に関する起債、借金になりますが、県の補助金など、事業に付随して歳入になる部分があります。それは、市の会計が歳入と歳出でイコールになるという予算の作り方をしておりますので、９ページの歳出で見ますと、１９１億円とありますけれども、歳入歳出予算というのは、入りも出も１９１億円で作るというかたちになっております。

市が一番問題として思っているのは、８ページの一般財源というものになりますが、こちらは、使途が決められておらず、市として政策的に自由に使えるお金

というのが一般財源で、先ほど説明をしました国庫補助金や市債というのは目的が決まっておりますので、使途が決められている財源になります。従いまして、今後、基金を増やし、借金と減らすという観点に立ちますと、この一般財源をいかにたくさんもっているかということが、重要だという認識のもとに、一般財源というかたちで、歳入については記載をしている状況であります。

しかし、ただ今分かりにくいというご指摘をいただきましたので、この一般財源という表と、また歳出に合わせた歳入の方で一般財源に係わらず特定財源という言い方をしますけれども使途が決められている財源、こちらにつきましても表記できるかどうかを検討してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

委員 N すみません。できれば、統一をするという検討をしていただきたいのです。市の立場は、広報おかやで発表するもので統一をしなくてはいけないと思います。財政面の部分では、このようにやりたいと言うのですが、市民は広報おかやを見ていると思いますので、もう一度ご検討をしていただいて、その部分を違わせるということであれば、納得はしますが私はそうではないと思っています。

あくまでも、入払を同じ表現にするかあるいは、一般財源の部分についてこのように説明をしていただかないと、市民の方は分からないと思います。そこをお願いしたいと思います。

秋山主幹 はい。承知しました。

会 長 今回の質問は一番難しい部分であります。一番捉えやすい、市の当初予算は年間200億円を超えていますので、それに対して収入が138億円でその差は何かという点で、つじつまが合わないということだと思っておりますが、その部分のご指摘という捉えですので、ご検討いただきたいと思っております。

それではこの件は事務局へ預けまして、次へ行きたいと思っております。
他にご質問がありましたらお願いします。

委員 N 続けてよろしいでしょうか。3、8、11、16ページに同じような記載で、市民ニーズの多様化、複雑化、高度化といった表現が何回も出てきましたが、市民ニーズが市政を問題にするような、どんなことがあるのか、お聞きしたい。

秋山主幹 市民ニーズの多様化、複雑化、高度化という言葉の使い方でございますけれども、こちらにつきましては、岡谷市総合計画の中にありますが、価値観やライフスタイルの多様化というかたちで、今の市民ニーズの状況をまとめてございます。

経済のグローバル活動の進展に加え、情報通信技術の急速な発展に伴い多種多様な情報を入手することが可能となり、個人の価値観が多様化しています。とりわけ、結婚や家庭に対する価値観の変化、女性の活躍推進、終身雇用にこだわりのない働き方など、これまでの標準的社会モデルに捕らわれない多様なライフスタイルを選択する時代となりました。こうした、価値観の変化が地域の支える関

係の希薄化を招き、身近な生活を守る地域活動の維持が課題となっています。多様化、複雑化、高度化した行政サービスの提供を図るとともに、多様な価値観を認め合い、市民ひとりひとりが活躍できるためのしくみづくりが必要となっていますということで、第5次岡谷市総合計画では課題として捉えているところがあります。ご指摘いただきました、行政に対して具体的にどうなのかということについて、例えばですが私が今まで仕事をしてきた中の経験でいきますと、例えば講演会を一つやるにしても、昔は有名な先生を一人連れてきてやれば人も来て盛況だったということでしたが、最近は、どこに価値観を見出すか個人それぞれになっております。また、保育園あたりで昼間働くということが今までは普通でしたが、現在では、皆さまご存知と思いますが、サービス業を中心として土日夜、かまわず働く時間があつたりしますので、保育園で考えますと、今では、土曜日日曜日に保育園を開けないと市民ニーズに応えられないといった状況だとか、東京あたりに行きますと、夜間保育所などありますけども、要は夜働く人達のための保育園を用意しなくてはいけないということもありますので、まさに、ニーズが多様化してきているとかと感じております。複雑化ということですけども、家庭環境について今は核家族化が進む、または一人で暮らしている方が多いという状況もございまして、昔は家族の中である程度協力をして行政が支援をして解決をしたものが、なかなかそれだけでは解決ができないといったことだとか、いろいろな要素が複雑に絡み合っていて、相談一つについても、今までは短時間で済んでいたものが、相談時間を長めに取って行政として何ができるかを考えながら対応をするという状況かと考えております。

また、高度化につきましては今まで、例えば本を読んだり、テレビを見的过程中でいろいろな情報を集めて、その中で専門書を読んで対応したりということがありましたけれども、先ほどご説明をしましたが、情報通信技術が発達をしておりますので、市民の方々も多くのことを知っているという中で私どもも相当レベルアップをしながら相談対応をしていかななくては解決が難しいと、一人一人に対してかかる時間が、以前に比べ長くなっているという状況かと思えます。社会福祉を担当していた小坂がおりますので、多様化、複雑化、高度化についてのあたりについて経験があると思えますので補足をしてもらいたいと思えます。

小坂主査 はい、私は以前生活保護の担当をさせていただきました。その中で感じたこととしますと、一人一人にあった行政サービスを提供させて、その方らしい生活をしていただくことが行政の仕事だと思うのですが、どうしても、行政でできることには限りがあります。例えば、保護費を例にしますと足りないと言われても私たちは、国で決められているものになりますので、どうにもならないと申し上げるしかないのですが、個々の要求が高まっているということは感じております。なので、そのような部分について、杓子定規にできませんと答えるつもりはありませんが、本来は答えてあげたいとは思いますが、そのような部分で市民ニーズに対して複雑な部分があると、経験をして感じたことになります。

山岡副技監 付け加えて、私は建設関係になりますが、この間も質問があった湊の廃川敷につきまして、担当をしている中で民間のいろいろな方とお話をしております。民間が資産を持ちたくないという傾向は以前からあったのですが、最近はそのことが強くなってきています。行政は民活といってまちづくりの中に民間を入れようという動きをしておりますが、民間もやる気はあるのだけれども資産を持ちたくないというところで、例えば、行政の土地を民間が借りて事業を行う手法も出てきています。今は流行が短い期間で動いていることもありますので、今までは商業ビルを作れば人が集まって、何年かは安泰ということがありましたが、その期間が非常に短くなってきているということもあり、小売店舗はネット通販が出てきているので、お店を構えていても物が売れないという、時代の変化のサイクルが短くなっていることを実感しております。では、その中で行政として何かできるか、民間とどうやって進めていけば良いのかというところはかなり、今までの経験からは推し測れないという状況であるということとは実感しているところです。

委員 N はい。続いてよろしいでしょうか。

6 ページの取組効果額にあります、1 の歳入確保への取組の広報物等への広告事業の推進についてですが、本来の広告とは商業的に言って広告をする主が、広告をするという目的で出すことだと私は思っています。市が行う広告事業については、理論を整然とし行っていただきたい。広告目的以外のものでお金を集めるようなことはやめて頂きたい。どこかを遠慮するようには、言えないと思いますが意見の一つとしてまとめて頂ければと思います。ただ今の件は、こちらからの一方的なお願いです。

2 番目の最初の公用車両の効率的な運用について、おそらく車の台数を減らしているのではと思う。庁内で使う時は必要な時に申し出るというのは効率的だとは思いますが、それで結果的に2年間で40万円削減できた結果になっている。40万円ということが、皆さんの仕事にブレーキをかけているのでは、まずいと思います。外出をしたいが車がないので午後にするなどといったことがあるのか。40万円のために行うのは意味がないのではと疑問に思います。何百万という効果であれば良いと思いますが、その辺りについて、私が思った意見を述べさせていただきましたので、お話があるところであれば検討していただければと思います。

また、同じところの施策・事業の選択と集中について単年度効果と累計効果額としてこの部分と下の表の部分にも出てきますが初めて見たときに、計算をしないと、意味が分からない。単年度効果額はいらないのでは。28年度、29年度は欄が分かれていて、単年度の効果を示そうとしている。その下に累計がある。28年度に29年度が加算されているのですが、一見2重に加算されているように見えてしまうという心配。二行にせず一行で良いのでは。28年度の効果は29年度に出てくるのでそれで良いのではと私は考えます。一行にした方がわかりやすい。そうでなければ、1から5まで全て再確認をしなければならない。人件費までみて本当に28年度にやったものは29年度に功を奏

しているのであればその数値も掲載しなくてはいけないという、突き詰めた考え方になってしまうため、ご一考いただければというのが、私の考えです。

秋山主幹 お願いします。

まず、最初に広告のことですが、先ほどご説明をしました、一般財源の確保が重要ということでお話をしましたが、市としてお金を得るという手段には限りがありまして、岡谷市では広告等に力を入れて一般財源を確保しているところです。広告を掲げて公用車が走っておりますが、見る方によっては何故あのようなことをするのだろうと、思う方もいらっしゃると思いますが、市としますと限りある行政資源を有効に活用してお金を確保するということで行っているものであります。ただ、当然広告主がおりますので、広告をする必要がないところへ、営業をするのはいかがかと考えます。それについては、市の中で話をしていきたいと思います。それから、公用車の件につきまして、効果額が40万円ということでありますけれども、3ページをご覧ください。具体的な効果をお示ししておりますが、中身を見ると車両の必要台数につきましては、過剰にならないよう必要な台数は確保しつつ、適正を図っているところですが、効果というところにつきましては、バイクや自転車を活用するといった、本来車を使用するとガソリン代がかかりますが、それにより軽減が図られたというかたちの数字になっておりますので、ご了解いただければと思います。

それから、単年度効果が分かりにくいということではありますが、こちらにつきましては今までは、このような効果額のまとめとしますと単、年度効果だけを羅列をして合計を表記していましたが、庁内議論の中で、例えば新たな定員適正化計画の数値で見ていただきますと、翌年度にわたって効果が出るものにつきましては単年度の効果とともに累計で表してはどうかとの提案がありましたので、今回のプログラムからそのような表現をしております。一番下に累計効果額が各年度の効果が翌年度の効果に影響する項目を累計しているとの注書きがございますがそのようなかたちで、当年度効果として発生したものを把握しつつ、累計ではいくつだったと見ることができる形で表現したものでございます。が、分かりにくいといったご指摘をいただきましたので、単年度効果は表にのせずに、累計効果だけを表にのせていくというかたちのものを検討していきたいと思います。

よろしくをお願いします。

会 長 分かりやすいものとしていただければと思います。

委員 N もう一つだけすみません。

はじめにの部分で、ファシリティマネジメントについて県が推奨して市へ紹介をして行っているのかと思いますが、12ページの公共施設の部分について考えると庁舎も公共市施設として捉えるのであれば、まずファシリティマネジメントを導入するというようなことがあれば良いかと、個人的には思うのですがそのようなことは無いのでしょうか。

秋山主幹 はい。岡谷市のファシリティマネジメントにつきましては、言葉についてはこの計画書には出てきませんが、業務としますと公共施設等総合管理計画を策定しまして、それぞれの公共施設について方向性を示しながら今後、適量適正化を図っていくことというかたちで業務を行っているというところでございます。県としては、ファシリティマネジメントという言葉を使っておりますが、この計画書には出てきていないということで、ご理解をいただければと思います。

委員 N ということは、はじめにという中で書かれていることだけで読みなさい、ということでしょうか。このプログラムのはじめにという部分にファシリティマネジメントと記載がありますので、岡谷市でも取り入れるのかと思いましたが、その先を読むと何も示されておられませんので、誤解とならないかその確認になります。

秋山主幹 ただ今、ご指摘をいただきましたので、公共施設の老朽化への対応ということで、１２ページと１５ページの重点改革項目、行政運営に関する改革、いわゆる公共施設をどのようにやっていくか、最適化について触れておりますので、ファシリティマネジメントという言葉を入れていきたいと思います。
よろしく願いいたします。

会 長 では、１ページ目にある言葉を関係するページへ入れていただき、整合性を取るために文言を追加していただくということをお願いしたいと思います。
よろしいでしょうか。
時間の都合もありますので、次へいかせていただきます。
１４ページの「５ 岡谷市行財政改革プログラムの基本的な考え方」について審議をいたします。
事務局から何か補足などありますでしょうか。

秋山主幹 はい。こちらにつきましては、補足説明、事前質問はございません。
よろしくお願いします。

会 長 それでは、「５ 岡谷市行財政改革プログラムの基本的な考え方」についてご審議をしたいと思います。
何かご質問などありますでしょうか。

委員 K よろしいでしょうか。歳入について、今取り組もうとしていることが、今までと全く同じ、工業を中心とした市税その他、実施計画１から９の今までと同じで変わっておらず、ふるさと納税や市税等の収納率の向上であるとか、当然やらなくてはならない内容なのですが、先ほどもあったように市民ニーズなどが変わっている中で、これだけで歳入が上がっていくのか疑問があります。例えば、工業だけでなく夜景などといった、市も関わり人を集めてお金を集めるといった取り

組みを神戸などで行っていますし、北海道では花を利用した集客やお金を集めるといった観光源の取り組みもあります。今まで、岡谷市は工業系の都市であったので工業系を中心とした収入確保に取り組んだ方が楽だと思いますが、発想の転換もやる時期に来ているのではと思います。この5年間で具体的に取り組むことは難しいのかもしれないが、今から考えなければ、将来厳しくなるのではという感覚を持ちましたので、検討項目に入れていただければと思います。

秋山主幹 ありがとうございます。

こちらの歳入確保につきましては、継続事業ということで載せてあります。先ほども広告のところで申し上げましたが、市として歳入確保は難しい部分もあります。その中で岡谷市については、製造業が強いということでこちらを特化しまして、行政改革の中にその事業を入れ込んで取り組んでいるということでございます。この実施計画につきましては5ケ年で実施をしていくものとしておりますが、今回の場合は期間が5年ありますので、新たな取り組み等が出てくると思います。工業だけでなく、観光農業商業といった産業による波及効果も含めた中で取り組みを進めていただきたいといった内容で答申書に盛り込ませていただきたいと思います。また、そのような取り組みが可能であれば、実施計画に追加をして取り組んでいきたいと考えております。

会 長 はい。ありがとうございます。他に。基本的な考え方についてほかによろしいですか。

それでは、15ページ「7 改革へ取り組むための重点改革項目と推進項目」について審議を行っていききたいと思います。

最初に「重点改革項目1 行政運営に関する改革」に関する審議に入っていきたいと思います。

事務局から何かありますでしょうか。

秋山主幹 はい。よろしくお願いいたします。

こちらについて、事前に質問を頂いております、補足説明はございません。質問に対する回答ということで、お願いします。

最初に、実施計画全般に関して質問を頂いております。新規の実施項目が3件追加されているが立案のプロセス（どのように立案され、採択されたか）はどうだったのかということでございます。

こちらにつきましては、本プログラムの基本的な考え方としまして、14ページの5番でご説明をしました各課に実施計画を作成していただいたというかたちでございます。

実施計画の立案につきましては、本プログラムの基本的な考え方として、これまで取り組んでまいりました岡谷市行財政改革プランや岡谷市行財政改革3か年集中プランの基本的な考え方を継承しながら、たゆまぬ行財政改革に取り組むため、「基本方針に持続可能な行財政の運営」を示しながら、3つの重点改

革項目に従った実施計画の策定をお願いしたところです。

担当課では、それぞれ現在の実施計画を検証しながら、継続して取り組むもの、廃止するもの、新規に取り組むものを具体的に組み入れる項目について、実施計画として提出いただいたものであります。先ほど少し、触れましたが、今回5か年計画ということでありますので、その後、社会情勢などの変化の中で、新たな取り組みなどがありましたら出して欲しいというかたちでまとめたものになります。

2つ目になります。改革実施項目の所管課について、介護福祉課をはじめ8部署（単独もしくは関係部署）の取組項目がなく、「全庁」に含まれているようですが、各所管課の取り組みは立案プロセスの項目が上がりなかったというご質問を頂きました。

こちらにつきましては、行政が行う事務事業の改革に関しては、内部効率化より実現ができるものだけでなく、外部に影響を及ぼす事項もありますが、外部に影響を及ぼす計画については、具体的に示すことが難しいため、本計画書では、内部効率化を主とした実施計画が柱となっているところですが、対象とするのが難しい業務もあるところであります。

各担当課で提出していただきました実施計画は、全部で57個でしたが、先日ご説明をいたしました、類似した計画はひとつの取組項目として整理し、44項目となっているところです。

なお、「全庁」という枠組みは、全庁で取り組むべき事項という考え方のもと取りまとめておりますので、実績が上がれば本夏に行った審議会と同様、本審議会に報告を上げてまいりたいと考えております。

また、本プログラムの計画期間は5年間となっておりますので、その時代にあった取り組みを、実施計画への追加などを行い、充実させていきたいと考えております。

それから、実施計画の12番になりますが、実施計画12ページの9番のシルキーバスの利用促進ということで、質問をいただいております。

本日、お配りをしました資料の①をご覧ください。シルキーバスの運行経費につきまして、高齢化社会に対応した市民の足として必要であるが、平成29年度 運行にかかった経費はどうであったかということでございます。こちらの資料につきましては、平成29年度だけでなく他年度も載っておりますが、一番上をご覧ください、運行経費、運賃、助成額と載っております。助成額につきましては、運賃だけでは賄えず市が一般財源等を含めまして会社へ助成しているものになります。収入割合につきましては、運行経費に対しまして運賃で賄っている率を表示してございます。年度で追ってみて頂きますと、平成24年度から現在では落ちてきているという状況でございます。

シルキーバスの運行につきましては、運行経路等の見直しがございます、単純な比較は難しい部分もありますが、総じて運賃は減ってきている状況でございます。

ここには記載しておりませんが、運賃等の中に国からの補助金が含まれてお

ります。

次のご質問で、料金の見直しの予定はということでご質問をいただいております。

シルキーバスについては、岡谷市の方で運行をしておりますが、岡谷市、諏訪市、下諏訪町で運行をしておりますスワンバスについては、2020年度の料金改定に向けて現在検討中ということでございます。併せてシルキーバスについても同時期に運賃の改定ができればということで検討を進めているということでございます。

説明は以上になります。よろしくお願いします。

会 長 スワンバスは2市1町で同意ができないと、ということもありますので、大変だと思えますが。

何かありますでしょうか。

委員 N 16ページの2番目 事務事業の抜本的な見直しということについて、民間の力を使うという発想は悪いわけではなく、PPPとPFIというものを使っていくと書かれていますが、実際は第3セクターで行っている事業が成功しているかどうかといったことについて、どのように捉えていますか。

山岡副技監 PFIが広がった時期がありました。ちょうど、新病院を建設する時期に他市でPFTの成功事例もありましたが、その後の進展があまり思わしくない事例もあります。民間の運営計画では安価で運営が可能といったことでスタートをしたが、実際は赤字経営になっていき、委託料の増加など、成功事例は多くはなく、PFIから離れた時期もありました。最近はその辺りも見直しがされ、PPP、いわゆる公民連携といったところで、金融機関も力を入れてきているといった実態があります。ですので、公がお金を出していくといった部分では収入が安定し、3セクではなく民間で会社が数社出資し、特定目的会社を設立して、親会社は倒産しても持続経営ができる仕組みに加え、行政が床を借りることで安定した収入を確保し、これが担保となり銀行が融資する形式で運営している事例があり、成功事例も出てきています。第二世代ではありませんが、このような傾向があると認識しております。

会 長 ほかにいかがでしょうか。

ここまではよろしいでしょうか。

ここで10分ほど休憩を取ります。16時25分頃から再開をしたいと思います。

会 長 17ページの、重点改革項目2 歳入・歳出に関する改革から再開をさせていただきます。これは、事前質問などありますか。事務局よりお願いします。

秋山主幹 はい。いくつかご質問をいただいております。

まず、最初に市税等に対する収納対策についてご質問をいただきました。実施計画の１０ページ２番の取組内容をご覧いただきたいと思います。そこに記載してあるとおりとですが、早期対応による新たな滞納発生防止、納税啓発、納税困難者の生活実態把握、納税相談、滞納初期における積極的な折衝、差し押さえなど法的対応の検討、滞納整理強化月間の設定、国税局ＯＢの採用、長野県地方税滞納整理機の活用、県との合同徴収、地方税共通納税システムのＰＲといった取り組みを行っております。岡谷市では、収納率は高いレベルにあり、とにかく滞納の発生をさせないといったところの取組に力を入れております。滞納は一度発生しますと、雪だるま式に増えて行ってしまうといった状況がありますので、現年に発生した滞納は、現年の頂戴をするといったことで進めております。ただ、中には納税困難者など、税金の仕組上、前年度の収入で税金が決まるといった状況もあり、前年と状況が変わる方もいますので、そういった方には丁寧な納税相談や納税誓約書などによる少しずつの納税などにより対応をしております。そういった方以外には、自宅や給与等の差し押さえなどの法的に対応しております。中でも困難事案につきましては、長野県地方自治体滞納整理機構といったところへ債権移管を行い、差し押さえなどの対応を行っているところであります。

それから、次になりますが、国保の収納率の状況でございますが、１１月末時点で現年：５８．３％（対前年比△０．２％）、過年度分、滞納分になりますが２３．８％（対前年比＋０．２％）という形でございます。

次ですが、実施の中で市税収納率９９．１０％、５年間同値の理由はということですが、９９．１０％は、現状では高い水準であると考えております。これを維持することも大変な目標として捉えている。先ほど、少しご説明をいたしましたが、収納率を上げる画期的な方法はないため、一つ一つ地道に取組少しでも収納率が向上するよう取り組む。

なお、市税において収納率を０．１％上昇させるための具体的なイメージは、約７００万円の徴収が必要なところです。

それから、市税の増額は困難な中、収納率の見通しはということにつきましては、先ほどの、市民税の部分で触れましたが、景気動向等により、納率向上の見通しは困難な状況であります。９９．１０パーセントと高い水準へ上げてきておりますので、目標値を維持できるよう取り組むといったところでございます。

事前にご質問をいただいた内容は以上になります。

会 長 ありがとうございます。９９．１０パーセントについては、現状で非常に高い目標値であり。これを維持したいということということです。

他にご質問がありましたらお願いいたします。いかがですか。

委員 N よろしいですか。本編１７ページの（１）歳入確保の取組の２段落目、さらにからの、未利用資産となっている市有財産の貸付・売却について、私は大賛成です。

それで、私が思ったのは、13ページのところに基金の繰入額が示されているが、その辺りについて、市の持っている土地を売ってはどうか。というのは、今売却をしなければどんどんと人口が減少していくので、土地を買う人がいなくなる。作戦として、意識をしてもう一行アピールをして、現在持っている売却可能な資産をリストアップして補填にあてる、現金で持っているか、土地で持っているかの違いではあるが社会情勢からすると、土地を買う人がいなくなるため、市で持っている不要財産を売却するということはどうかという提案です。文章的にもう少し強めに、歳入確保の取組としてさらにと記載してはどうか。

秋山主幹 はい。ありがとうございます。現在、岡谷市では湊の廃川敷という言葉も出ましたが、湊の市有地につきましては売却ができるよう手続きを進めております。ああいった、道路に面して比較的平らな土地については、以前から積極的に売却する機会があれば取り組んできたといった状況でございます。今後も引き続き、売れるものは売るといったことで取り組んでまいりますが、一番はじめに触れていただきました、基金の繰り入れにつきましてですが、基金の繰り入れをしなければ財政運営ができないといった状況でありますので、だからこそ行財政改革でできることはやっぴいこうと取り組んでいきたいと考えております。土地の売却等による収入で一時的な補填はできますが、経常的にかかってくる経費を減らさなければ、いずれまた基金繰り入れに頼らなければいけない状況になりますので、土地の売却を積極的に進めることをしながらも、経費につきましてはできる限り削減をして、土地売却だけでなく歳入を確保していかなければならないと考えております。

山岡副技監 補足と言いますか、皆さんご承知だと思いますが、今、人口が減ってきており、今後も減り続けるといった中で、土地の価格は下落の一途を辿っております。土地を買いたいというニーズが無いので、土地の価格が下がるといったこともあります。そのあたりについて、委員さんがおっしゃられたこととの板ばさみのようなところはありますが、できれば売っていきたいという考え方もあります。しかし、土地はお金を生んでもらうように活用していかなければならないという部分もありますので、その辺を加味しながら、先ほどPPPといった話もありましたが、例えば定期借地で民間へ貸して、民間がそこで売り上げを上げて税収となって返ってくるといったようなシステムもあろうかと思っておりますので、そのような部分も併せ持った、時代にあった有効活用の仕方を検討していく必要があると考えております。

委員 N はい。承知しました。

会 長 いずれにしても、さまざまな条件などを検討していただき対応していただきたいと思います。他にはよろしいですか。

それでは、次に「重点改革項目3 人材育成・活用に関する改革」について入

っていききたいと思います。

事務局の方から補足など、説明があればお願いします。

秋山主幹 はい。こちらにつきまして、数点ご質問をいただいております。本編の１８ページ、実施計画の１６ページからになります。

まず初めに、実施計画１７ページの下段になりますけども、職員提案制度の充実という部分でご質問をいただきました。職員の提案数はいくつかということにつきましてですが、提案方法について見直しを行いまして、従来は個人提案でありましたが、それに加えて組織としての提案を受け入れるということとで、合計で６９件となりました。提案者数の内訳としますと個人が３２件、課としますと３７件というところでございます。それから、提案の内容につきましてですが、本日お配りをしました資料の②をご覧ください。内容や、取り組み状況につきまして記載がでございます。職員提案につきましては６４件、改革・改善提案行政運営に関することは、５件という提案をいただいているところでございます。

(配布資料に基づき説明)

会 長 ただ今の、説明や質問に対するご意見でも結構ですが、人材育成・活用に関する改革について何かありますでしょうか。

よろしいですか。また、後でお気づきの点等が出てくればご意見を頂戴することもできますので、次へいかせていただきます。

次は、「企業会計の取組」に関する審議をいたします。こちらは、重点改革項目にはございませんが、実施計画を開いていただいて、２１ページから２２ページになります。これについて、事務局から何かありますか。

秋山主幹 補足等、特にございません。

会 長 上下水道の料金につきましては、単独の個々の審議会がありますので、そちらで諮っていると思います。料金につきましては３年に１度見直しをしていると記憶しております。病院につきましてはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

秋山主幹 補足をさせていただいてよろしいでしょうか。

公営企業会計の取組みについては、重点改革項目の中にはございません。公営企業会計につきましては、会計そのものが企業会計の簿記によって処理をされているということで、経営が悪くなれば赤字となるという、わかりやすい会計になっておりますので、企業会計の取組みということで、一般会計とは切り離して整理をしておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

会 長 はい。他に何かありますか。

委員 N はい。よろしいでしょうか。企業会計という切り口ではありますが、基本構想の施策１４－２というところに、都市基盤の整備、上下水道の維持整理という項目があったと思います。その主な取組みの中に老朽化施設の計画的な補修及び再構築という項目がありますが、私の記憶によると、この先水道の鉄管の修繕が増えてくるという心配があり、今からいろいろなかたちで調査をして準備をしていかないと、間に合わないのでは思う。そんなに水道管が数百年も持つわけがないというようなことから、この会計の中にそのような項目があるのが心配。そのようなことが取組内容に書ければどうかと思ひまして。

秋山主幹 はい。行財政改革プログラムにつきましては、内部効率化という話をさせていただきましたが、そういったことを中心にまとめているといったことでご理解をいただければと思いますが、老朽管への対応につきましては、下水道の耐震化や上水道の老朽管を変えるなどに取り組んでおりますので、こちらにつきましては、後ほどご説明をいたしますが、個別計画ということで別に上下水道の計画を持ち更新を進めていくというかたちにしておりますので、そちらの計画に委ねていきたいと考えております。

以上であります。

山岡副技監 ただ今、基本構想の部分からご質問をいただきました。前回の審議会時に抜粋し、関連する部分だけを資料としてお配りさせていただきましたが、質問が市制全般にわたる部分もありますので、今回、基本構想全般について議会に提出しているものと同じものを皆様へ資料としてお配りします。

(資料配布)

秋山主幹 はい。先ほど頂いたご質問に対してお答えをさせていただきましたが、その内容につきまして、前期基本計画の６４ページをご覧ください。計画全体の流れにつきましては、後ほど説明をいたしますが、この岡谷市総合計画が一番、市の中の最上位計画になります。今、ご審議いただいている行財政改革プログラムにつきましては、この総合計画の下にぶらさがる行政改革分野の計画という捕らえになります。

上下水道の関係につきましては、６４ページと６５ページに掲げ、それぞれ上下水道の２０２３年度までの計画、下水道の２０２３年度までの計画というかたちで資料がつけられております。それに対する課題や施策展開の方針や主な取組みについてまとめられておりますが、その中に老朽施設の計画的な更新及び再構築と上下水道の個別計画により安心して上下水道が利用できるよう老朽施設の更新、再構築、耐震化を計画的に実施しますというかたちで、一番に取り組むという位置づけをしてございます。この、総合計画の成果指標としまして、上水道管

の耐震化率、下水道管の耐震化率をそれぞれ定めております。こうした計画を着実に実行するための個別計画としまして、下水道ストックマネジメント計画、下水道総合地震対策計画、水道事業基本計画、上下水道経営戦略というかたちで、個別計画により定めているというかたちになっております。

以上でございます。

委員 N 詳細を見る場合は、個別計画を見ろということでしょうか。

秋山主幹 はい。

委員 N それを分かるようにして、どういう位置づけかを1、2ページでわかるように記載があると良いと思います。

会 長 この審議会自体が、こういった計画の下にぶら下がっていて、行財政改革プログラムについて審議をするという前提については、皆さん認識をしていらっしゃると思います。

秋山主幹 補足をお願いします

前回の審議会時にお配りをしました、概要版にて説明をしましたが、基本事項の中に位置づけをお示ししてございますので、ご理解をいただければと思います。また後ほど、岡谷市総合計画全体の流れにつきましては、簡単に説明をさせていただければと思います。

以上になります。

会 長 では、よろしいでしょうか。

委員 N はい。

会 長 それでは、次にうつります。15ページになります。「6 岡谷市行財政改革プログラムの数値目標」になります。
事務局から補足説明はございますか。

秋山主幹 よろしく申し上げます。こちらにつきましては、数値目標に人口減少を食い止め、45,500人を維持などとしたらどうか。人口減少、少子高齢、これが一番根底にある問題と思える。ここから派生する様々な問題・課題に対応するための施策に思えるがいかがかといったお話がございました。

こちらにつきましては、本日お配りをいたしました資料の④をご覧ください。この部分につきましても、総合計画の流れの中で再度ご説明をいたしますが、人口については、総合計画の中で定めているということでございます。人口減少や少子高齢化については、岡谷市だけでなく全国的な問題となっています。人口減

少や少子高齢化については、少子化により引き起こされますが、人口が再生産されない水準で長年出生率が推移することにより、少子化が進み、ひいては人口減少につながるという流れです。

人口減少や少子高齢化は本市におきましても大きな課題と認識しているため、本市の最上位計画である第5次岡谷市総合計画では、岡谷市まち・ひと・しごと創生総合ビジョンに掲げる2060年の将来展望人口4万人台の確保の中間点として、2028年に46,000人台の確保としてあります。

本プログラムにつきましては、この総合計画の中の行財政改革分野の個別計画という位置づけになりますので、計画の性格は総合計画の達成に向けた、時代に即した合理的かつ効率的な行政を実現という考え方が主な観点となります。こうしたことから、間接的には人口に関する目標も見据えてということになりますが、総合計画の中の個別計画として、本プログラムに関する取組により本プログラムの目標達成につながるような構成としたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

事前に頂いた質問につきましては以上になります。

会 長 ありがとうございます。目標値につきましては、今、説明がありまして3項目ということになります。皆様質問はありますか。よろしいですか。

委員 A よろしいですか。人口減少を抑えるために、20代30代の転入を促進する策などを文章には書くことはできるが、具体的にどのようなことを考えているのかについては、これからということですか。

秋山主幹 はい。こちらの人口減少に対する施策というのは、ご想像のとおり非常に難しい中、岡谷市としては一つの方向性として働く場を整える、子育て環境の充実などによりまして、魅力をつくり、市民の方が離れていかないように、また外から来ていただきたいということで、考えております。そういった考え方が、この基本計画等流れとしてありますが、具体的な施策については、現在予算編成でやっておりますが、毎年実施計画というかたちで、予算とともに皆さまに表明するというかたちでございます。人口減少につきまして、今始めるのかというと、そうではなくて従来から、課題として認識をしておりますので、工業誘致に力を入れたり、子育て支援施設として西堀保育園や東堀保育園や、学校の耐震化等などの施策をうってきておりますけれども、そのようなものは改めて5総では施策の方向性として示していると認識をいただければと思います。

また、直接的に分かりやすいものは、移住希望者の方へお試し宿泊として泊ってもらい、魅力を感じてもらって将来の移住に繋げるといった分かりやすい施策もあり、現在取り組んでおります。以上になります。

会 長 よろしいですか。

委員 N はい。

会 長 よろしいでしょうか。それでは、本編 19 ページ最終ページになります、「8 改革推進と進行管理」につきまして、事務局から何かありますか。

秋山主幹 特にありません。よろしくお願いします。

委員 N はい。文章の書き方を少し変えていただきたいと思うのですが、(2)の進行管理と評価という中で、2行は文章が短いので1と2を一緒にして欲しい。2行目を読んでいきますと、年度ごとのとあるが、実施計画は年度ごとでよろしいですか。1行目に本プログラムの実施計画を定めとあるが、年度ごとの計画が作成されるということでしょうか。

秋山主幹 実施計画は、年度ごとの具体的な取組項目を明らかにした実施計画は、今まで説明をしてきた、実施計画の冊子になります。必要に応じて新たな計画などを加えるということで、お示ししております。

委員 N この2行の中で、年度毎ということを先に記していただければ、文章としてはすぐ分かる、ということと言いたかったのですが。では、実施計画は年度毎の作成はないということですか。

秋山主幹 年度ごとの取組については、実施計画書の数値目標などを示して、2023年度まで実施計画として定めているという作りになっております。分かりにくいようであれば、作文を変更したいと思います。

委員 E 一番のところで、年度毎計画を定めるとなっていますがよいのでしょうか。

秋山主幹 分かりやすい表現を考えたいと思います。

委員 N 皆さまがすぐ分かれば良いと思います。実施計画というのは、毎年行われるのかと思いました。2行目にある年度ごとという標記を前に出して、1行目とつなげ、毎年度作成し進行管理等評価をしますというふうに、まとめたらどうかという提案でございます。

年度計画は毎年作らず、補正をするだけということであれば問題がありますが。皆さんも文章を読んでお分かりになるのであれば、よろしいかと思います。

会 長 実施計画については、年度ごと定めず、見直し等を行っていくわけですから、今のような文章よりも、このままの方が良いと思います。

ですが、見直しや追加が出てきますので、それに関する言葉を入れていただくのは良いと思います。

秋山主幹 ここにつきましては、(1)推進体制と(2)進行管理と評価という2項目について書いてありますので、推進体制については推進体制のみ記入をするようにして、実施計画の内容については、進行管理と評価へ整理をして書いていきたいと思いたすので、よろしくお願いします。以上になります。

会 長 はい。それでは、よろしくお願いします。
他にはよろしいでしょうか。
では、ここで打ち切らせていただきます。岡谷市行財政改革プログラム(案)についてご審議をしていただきましたが、内容全体を捉えて、ご意見や思いがありましたら述べていただきたいと思います。

委員 A はい。これは一気に読み下すと先に読んだ部分は忘れてしまいそうですが、全体を読んだ感じでは、かなり細かな部分まで計画をし、それについて年間を通して実施し、その結果どうであったかまでを把握するという、従来の市では考えられなかった、企業のやり方に近づいていると感じました。このやり方で進んでいけば、原資がないから、やむを得ずやっているということであればそれまでだが、さらにこのような取組を進めていくと良いのでは。収入も減っていつていますので、さらに強力に計画を進めていかないと入りと出が開いていくばかりで合わなくなってくると全体を通して感じた。

委員 B 前回は出席することが出来ませんでした。今回、議事録と資料を読みながら、照らし合わせていただくことが精一杯で、疑問等は出てこなかったのですが、今日の説明で分かりましたので、取り組んでいただければと思います。

委員 C 人口減少につきまして、今後、若い人などが岡谷市に戻ってきたいと思える長い目で見て魅力的なまちづくりを是非お願いしたいと思いたす、そうすれば、東京からの移住なども増えるのではと思いたす。

委員 E 私も同感です。今回の行財政改革プログラムの説明の中で、行政運営はお金に関する歳入・歳出の項目について、内部の効率化を目指しているとお話がありました。効率化をして、無駄を削いで市民に貢献をするという内容で、なるほどとは思いますが、果たしてこれがどのように若い人たちにとって魅力的なまちづくりを発信していけるのだろうか、そのあたりについて少し、不安といいたすか、懸念を感じました。今後、若い人達にとって魅力が発信できるように内部の効率化をしていつていただければと思いたす。

委員 F はい。私もこれだけのことを考えて、実行するのはすごいことだと思いたす。先ほどの人口減少の話になりますが、自身の周りで結婚をしてない男女が非常に多いので、ここで子どもを産んで育てるよりも、その前のことを心配しないとい

けないと感じました。

委員 I これから5年間2023年度まで、今までとは違う大きな計画がない代わりに、いかにして財源を増やし、歳出を減らすか、それに対する方法ばかりで苦労だとは思いますが、やはり根底にある全国的な高齢や人口減少や少子化に対して、岡谷は何をすべきかを考えた時に、魅力がなければ戻ってきたくないことが多いと思います。この先、5年間は財源もやっていかれると思うのですが、それから後のことが今以上に大変になると感じました。

委員 J これを最初に読んだ時に、市の方々はこれからいろいろなことにおいて、細かくやっていただけるということは分かりますが、やはり行政側だけが必死になるだけでなく、個人の多様化といいますか、市民個々も生活することは大変で、要望することもあります。行政側も様々なことにおいて削減をし限界にきていると思いました。そこで、魅力あるまちづくりや市に若い人をといった時に自分たち自身も行政に頼る時はお互いに協力し合い、岡谷は工業や産業のまちといっているが、これからはそればかりで財政を豊かにするのは難しい部分もありますので、市が魅力的になるためにまた、ここに住みたい、行ってみたいといった、市民が生き生きとできる、元氣になれるよう市民と行政が協力できれば良い街になるのではと感じ、また自分に何ができるのかを考えさせられました。

委員 K 基本的には基本構想の部分でお話をさせていただいたとおりでございます。ただ、市の方が現時点でできることの中では、今回の計画は緻密にたてられていますし、良いと思いますが、先ほど皆さまからもお話があったように、これだけでは将来破綻に行ってしまうのではという危険性があると感じています。したがって、他の委員がおっしゃったように魅力あるまちにするためには、何が必要なのかを、市の職員だけで考えることは結構であるが、例えば市の提案制度も良いが、目安箱などを設け、我々だけでなく全体の意見も聞いて行政に反映していただくことが良いのではと感じました。いずれにしても大変ですが、我々としてはこの計画に対して市民に接してしていただきながら、将来へ向けて期待できれば思っております。

委員 M はい。行政改革は非常に大変な事業だと思います。これらも市民の意見などを十分聞きながら、他市が行っている、市民と協働のまちづくりの取り組みをお願いします。以上になります。

委員 N 基本構想に私も携わらせていただきました。また、行革の方も見させていただいて、細かな部分も上手くまとめておられて、政策的な分は進めていっていただければと思いますが、今後どのような世の中が良いのか、私自身は行政ばかりに頼る時代は終わって、住民全体が考えなければいけない時代が来ていると思っております。財源のない中でどのように生きていくのか、地域を救うという恰好だ

けではなく、高齢化で困っている人を地域でどのように救うのかということなど、行政ばかりを頼るのではなく、住んでいる人たちがどのように組んでいくのが大事になるかと感じております。行革を一つ核にして、周囲をどのように巻き込むかが重要になるかと私は感じております。

委員 H まず、公共施設のことについて関連していますが、先日、ある中学校で同じ市内の小学校の給食をその中学校で作っているという話を聞きました。そのようなアイディアについて、目的を特化して皆さんや市民からアイディアを募ると良いと感じました。また、人口問題の件について、例えば市内の公園など住んでいる私たちが魅力に気付かないことがあるのかと思いました。自分に関わりのある人が帰ってきてくれることを望むが、それと同時に、岡谷に縁もゆかりもない人達に岡谷に入ってもらふことも必要なのではと考えています。これについては、空き家対策や定住する人達の住まいの問題が上手くかみ合えば、様々な問題解決の糸口になれるといいと考えています。このようなことを考えながら、この委員になったおかげで、市の方が一生懸命考えて緻密にやっていることを知りましたが、多くの市民の方は分からないと思います。市報にも載っていますが、伝わりにくい部分もあると思いますので、この内容を伝えつつ何かに特化したアイディアを募集することによって、市が今考えていることを伝え、アイディアを出してみようという繋がりができると良いと思いました。

会 長 ありがとうございました。

行財政改革のプログラムの審議に立ち会っておりますので、この場だけでなく、これから5年間最後の評価まで、責任をもって参加させていただきたいと思えます。皆さま、ありがとうございました。この後、答申がありますので、次回は答申案の内容確認などを予定しております。事務局の方からお願いします。

秋山主幹 お願いします。

答申につきまして、本日いただいたご意見を踏まえ整えさせていただきたいと思えます。次回の1月11日の審議会時に案をお示し、ご検討いただければと思えます。その後、1月25日に答申の予定であります。

会 長 次回は、1月11日ということで会場が違いますのでご注意ください。
プログラム全体の質疑などを踏まえて、答申案の質疑を行うこととします。
では、事務局よりお願いします。

秋山主幹 お願いします。

まず、今日お配りした資料の中に、議事録の差し替えを入れさせていただきましたので、差し替えをお願いします。大変申し訳ありませんでした。本日、お配りしました岡谷市総合計画について、簡単にご説明をさせていただきたいと思えます。

(資料に基づき説明)

会 長 岡谷市総合計画と行財政改革プログラムの策定ということで、市も市民も大変方向に向かっていきますが、いろいろなことに関心を持ちながら、提言をいただければと思います。

委員 H 以上をもちまして、第3回岡谷市行政改革審議会を閉会します。お疲れ様でした。